

科目名	解剖生理学実習（栄養士必修：NR・SA 必修）				
授業形態	実習	学年	2		
開講時期	2023 年度 後期	単位数	1		
担当教員	漆谷 博志、水尾 和雅				
内容および計画	解剖生理学の講義において学習した生体の構造と生理をより総合的かつ系統的に理解できるようにするため、実際に体験する必要がある。そこで、生体の解剖や組織観察、血圧測定や様々な人体の生理現象について実習を行う。また、実験を行なう上で重要な技法や実験器具等の扱い方についても、実習を通して基礎を身につける。				
1	実験内容全体の概要説明、組織の観察 1：光学顕微鏡の使い方、口腔粘膜細胞の観察				
2	組織の観察 2：正常組織の観察、病理組織の観察				
3	生体の観察・組織の観察 3：実体顕微鏡の使い方、動物の解剖、観察				
4	組織の観察 4：筋肉・骨組織を用いた切片の作成と染色、および微細構造観察				
5	消化に関する実験 1：だ液中のアミラーゼ活性の測定				
6	消化に関する実験 2：胃液による消化の観察				
7	消化に関する実験 3：膵液による消化の観察				
8	血液に関する実験 1：血液型の判定、血液細胞の微細構造観察				
9	血液に関する実験 2：血液凝固・線溶現象の観察				
10	循環に関する実験 1：心臓の観察				
11	腎機能に関する実験：腎臓の構造観察、浸透圧に関する実験				
12	血液に関する実験 3：血糖値の測定				
13	循環に関する実験 2・呼吸に関する実験：発汗、呼吸数、脈拍などの測定				
14	循環に関する実験 3・感覚に関する実験：血圧測定、視覚、聴覚				
15	まとめ				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	解剖生理学実習	青峰正裕、藤田守 他	建帛社	9784767903798	2009
予め実験書を熟読し、実験器具名や実験操作を覚え、実験にすぐに取り掛かれるよう備えておくこと。必要に応じて資料を配布する。					
参考書	解剖生理学（講義）で使用する教科書 人体の構造と機能【第4版】、著者名：エレイン・N・マリーブ、出版社：医学書院 標準生理学【第9版】、著者名：小澤澗司・福田康一郎 監修、出版社：医学書院 その他適宜紹介する。				
成績評価					
	評価方法				割合(%)
	授業参加態度				30
	実習後に提出するレポート				70

学習到達目標	<p>栄養学に必要な生体を構成する要素や機能と構造について、講義での学習内容を基礎とした実習を行うことにより更に理解を深め、レポートなどにより適切に説明できること。</p> <p>周囲の学生と協力し、積極的に参加すること。</p> <p>実習書や座学で使用した教科書、配布する資料等を用い、予習・復習を行うこと。</p> <p>実習で得られた知識などを、栄養士としての仕事や、日々の生活に役立てられること。</p>
先修条件	
実務経験	
その他	